

『じんもんこんと私』

村上晴美

幹事任期：2003-2004 年度

所属：大阪市立大学大学院創造都市研究科兼学術情報総合センター

「じんもんこんで発表しませんか？」当時隣の研究室にいらした柴山守先生（現：京都大学）に誘われたのがそもそものきっかけでした。「何を発表すればいいのですか？」『人文科学』と『コンピュータ』に関係あれば何でもいいから」たしかそのような会話をしたような記憶があります（違っていたらすみません、柴山先生）。

この原稿を書くにあたり、じんもんこんで発表したタイトルを数えてみると 5 件ありました。

(1) 村上, 米澤：日本人は歌のどの部分を覚えているのか？ - 唱歌と童謡を題材として-, 第 48 回研究会, 新潟大学, 2000.

(2) Murakami, H., Hirata, T., Kita, K. : Subject World: A System for Visualizing OPAC, じんもんこん 2002, 大阪市立大学, 2002.

(3) 村上, 平田:記憶を中心とする人生の記録 - ユーザの知識空間の作成による Web ブラウジング履歴の想起支援, 第 61 回研究会, 山口大学, 2004.

(4) 村上, 上田 : Subject World における概念体系表示のための一検討 - BSH4 の表示方式 -, 第 63 回研究会, 岩手大学, 2004.

(5) 上田, 村上 : 関連語提示機能付携帯 OPAC の試作, じんもんこん 2004, 立命館大学, 2004.

これらを、どこかの学問領域に分類するとすれば、(1) は心理学、(2),(4),(5) は図書館情報学だと思います。(3)はちょっとわかりません。ふりかえってみると、どの学問領域に分類してよいかかわからない研究、分類はできるけどその領域で議論するには少々危険(?)が伴う研究などを議論する場として、活用させていただいたと思います。

このような活用の仕方を今後もできれば、と考えています。つい先日も、ある学会で「ネタがあるがどこで発表すればいいのかわからない。じんもんこんはどうでしょうか...」と聞かれたことがありました。「はい。『人文科学』と『コンピュータ』に関係あれば何でもいいと思います。」とつい答えていました。

2003 年から 2004 年度に幹事を勤めさせていただきましたが、あまり幹事らしい働きはできなかつたと申し訳なく思っています。せめて自分のできることとして、発表の場として活用させていただくこと、興味を持った方におすすめること、などの面で貢献できれば、と考えております。そして、この研究会で発表した研究を着実に育てることがせめてものご恩返しと考えております。